

湯沢町観光振興計画（2022-2031）（案）のパブリックコメントの結果について

湯沢町観光振興計画（2022-2031）（案）に対する意見募集を行った結果、8人の方からご意見をいただきました。提出されたご意見についての町の考え方は次のとおりです。貴重なご意見ありがとうございました。

★募集概要

募集期間	令和4年1月20日（木）～令和4年2月18日（金）
意見の提出者	8人
意見の件数	69件
提出方法の内訳	電子メール7人、持参1人

**湯沢町観光振興計画（2022-2031）
パブリックコメント一覧と町の考え方**

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
1						R4.1.24	持参
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
1-1		4.目標実現のための戦略	<p>観光立町きれいな町づくりに対する提案</p> <p>1.カルチャーセンター内の公園の四季に応じた草木の造園について</p> <p>カルチャーセンター内の公園は、春は紅山桜やしだれ桜が見事で素晴らしいが、終わった後は雪が降るまで花一つなく淋しい。川の流れに沿って、花菖蒲やあじさい、つつじ等手間のかからない花や、赤や黄色の色紅葉等を植え、経費に応じてテニスコートや運動公園に伸ばしていく。</p>		<p>計画には具体的に記載はしませんが、「戦略3居心地の良い景観・街並みの整備」において、「3-4.湯沢町ならではの風景を楽しめる視点場の発掘と整備」「3-5.戦略的な植物の植樹と整備」を進めていくと記載しています。いただいたご意見は、関係機関等にお伝えし、施策を実行する上での参考とさせていただきます。</p>		
1-2		4.目標実現のための戦略	<p>2.各町内を流れる川の草刈り</p> <p>湯沢町を流れる川の水はきれいだが、現状は、川に水が流れているかもわからないくらい草に覆われており、子どもたちが足を滑らせたりしたら大変である。美しい川を取り戻したい。</p>		<p>計画には具体的に記載はしませんが、「戦略3居心地の良い景観・街並みの整備」において、「3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備」を進めていくと記載しています。いただいたご意見は、関係機関等にお伝えし、施策を実行する上での参考とさせていただきます。</p>		
1-3		4.目標実現のための戦略	<p>3.町道の側面に耕作放棄されている田畑の草刈り</p> <p>各町内の区長さんをお願いして、町道の側面に耕作放棄されている田畑の草刈りを（強制でなく）してもらおう。①野生動物の侵入を防ぐ②町の美化にも通じる</p>		<p>計画には具体的に記載はしませんが、「戦略3居心地の良い景観・街並みの整備」において、「3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備」を進めていくと記載しています。いただいたご意見は、関係機関等にお伝えし、施策を実行する上での参考とさせていただきます。</p>		
1-4		4.目標実現のための戦略	<p>4.各町内の一か所（道路に面している所）に子どもたちと大人で花を植えて育てる（町で補助）。</p> <p>町内ではコンクリートのポットに花を育てていてとてもキレイである。そうでない地域でも各町内の住民が一つのかたまりとなって輪を広げていく。</p>		<p>計画には具体的に記載はしませんが、「戦略3居心地の良い景観・街並みの整備」において、「3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備」を進めていくと記載しています。いただいたご意見は、関係機関等にお伝えし、施策を実行する上での参考とさせていただきます。</p>		

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
2						R4.2.7及び2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
2-1	6	1. 計画の背景と目的	<p>「基本理念と目標像」の「君と一緒に暮らす町」について。</p> <p>「君と一緒に暮らす町」の前に「～観光立町宣言・湯沢町～」を入れるべきではないでしょうか？</p> <p>湯沢町総合計画32Pでは、「本町では、主幹産業である観光の振興と移住・定住促進の二つの分野から湯沢町を表現することを念頭に ～観光立町宣言・湯沢町 君と一緒に暮らす町～をブランドスローガンとして掲げています。（以下略）」とあります。これを読みますと、「観光立町宣言・湯沢町」が観光振興の側面を、「君と一緒に暮らす町」が移住・定住促進の側面を表しているように見えますので、「～観光立町宣言・湯沢町～」を入れるべきではないかと考えた次第です。</p> <p>（有名企業のブランドスローガンなどは、一言一句を付けるか付けないかまでかなり徹底して考え抜かれて使用されていると思います。そういったブランディング戦略という意味でも、「観光立町宣言・湯沢町」を付けるか付けないかという点について意図的な運用がなされるべきであると思いました）</p> <p>「～観光立町宣言・湯沢町～」を入れるにせよ入れないにせよ、一方で、「君と一緒に暮らす町」の「君」には観光客・来訪者も含まれるかどうかという点についても、観光振興計画6P及び総合計画32Pのどちらにおいても不明瞭だと感じます。</p> <p>「君と一緒に暮らす」と聞くと、個人的には観光客は含まれず、当町の住む人だけが想起されます。総合計画32Pにおいても「君」に観光客・来訪者が含まれるかどうかは判然とは書かれていないと思います。</p> <p>観光振興計画がこれから増やしていこうと考えているのは、様々なシーズンに来てくれて、町民とも交わり、SNSでも継続的に湯沢の魅力を発信してくれるような観光客、ということだと思います。少なくとも、そういった当町との関わりが深い観光客であれば、湯沢町民にとっては「一緒に暮らす」存在と言え、「君」には観光客も含まれるのだと言えるのではないのでしょうか。折角の素敵なブランドスローガンですので、この点を曖昧にせず湯沢町の全ての人々が共通理解を持てるようにメッセージを発していただけると良いのではないかと思います。（総合計画の文言を変えるというのは難しいと思いますので、今後の本ブランドスローガンの使い方において良くしていけるところがあるのではないかと、という意見です。）</p>		<p>ご意見のとおり、総合計画の文言を変更することは難しいのですが、今後のブランドスローガンの使い方において参考にさせていただきます。</p>		

2-2	8	1. 計画の背景と目的 (4)前計画の検証	<p>「前計画の検証」の「評価方法の確立については今後の課題といえます」とある点について。 8 ページ下部に記載の5段階評価は以下となっています。</p> <p>5:想定以上の事業を実施し、非常に高く評価出来る。 4:想定以上の事業を実施し、高い評価が出来る。 3:想定通りの事業は実施し、一定の評価が出来る。 2:想定していたほどの事業は実施できず、あまり評価できない。 1:事業を全く実施しておらず、評価できない。</p> <p>ここに、【想定通りの事業は実施したが、あまり評価できない (or 改善すべき余地がある) 。】といった、2と3の間の評価段階が必要ではないでしょうか。</p> <p>これがないがために、行政と機構の回答がほぼ全て「3」になってしまっており、今後の改善対象の優先順位づけが不明瞭になってしまう等の事態を懸念しております。また、本評価は第三者評価ではなく取り組み主体による自己評価と理解しておりますが、そうであればなおさらそのような評価段階があったほうが信頼感が増すのではないかと思います。</p>	<p>今年実施した評価段階はこのようになっていますが、次年度以降、計画の進捗を管理していく際には改めて検討しますので、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>	
2-3	13~40	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化 (2)外部環境の変化	<p>P13~P40 「湯沢町観光を取り巻く現状と課題」について P13とP14~P28、それとP29とP30~P40の関係性が分かりにくいように感じました。</p> <p>P13をP14~P28の総論・まとめとするのであれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人口減少、高齢化 ②地価の下落 ③客層の変化 ④観光推進組織のあり方の検討 ⑤観光資源の新規オープンや自然資源の魅力向上 <p>の小見出しをP14~P28の上部に追記したりしてはいかがでしょうか。またその場合、P14~P28のいくつかは①~⑤のいずれにも該当しないものもあるような気がしますが、一部は参考資料に回すなどをするとより見やすくなるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見を参考に、よりわかりやすい記載に改めます。</p>	有

2-4	42	<p>3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針</p> <p>(1)目標像</p>	<p>「3.湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針」の(1)目標像について</p> <p>「あたたかい「雪」」、「冷たいはずの雪があたたかく感じる」というところは意外性があるが、一方で、「目標像」という本計画の根幹であることを踏まえるともう少し奇抜さを抑えた表現でも良いのではないかと思ひ、以下のような案を考えてみました。</p> <p>① 湯沢町は、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」というフレーズの元ともなった日本でも屈指の雪国です。しかし一方で、町名である「湯」沢の温泉、そして豊かな野山と清流には、春夏秋冬を通じた当町のあたたかきで芳醇な自然の恵みが象徴されています。</p> <p>② 湯沢町の魅力は、何よりもこの豊かでダイナミックな自然を身近に感じられることであり、私たちは人の手を入れることで自然の魅力を引き出し、常にその時代時代のニーズにあった自然との触れ合いを人々に提供し続けてきました。</p> <p>③ また、古来から現在に至るまで、街道沿いの温泉地・リゾート地として多くの旅人をもてなしてきた歴史は、町外からの来訪者をオープンに受け入れる気質を育んできました。</p> <p>③ 四季折々の豊かな「自然」と「人」を大切にしたい思いをもとに、町外の世界中の人々が、様々なライフステージにおいて気軽に、いつでも訪れることができ、世代を超えて愛され続ける経験価値を提供する唯一無二のまちを目指します。</p> <p>【説明】</p> <p>①：当町の豊かな「自然」について記載。あたたかさを感じるのは「雪」ではなく、「湯」沢という言葉自体が持つ語感と豊かな自然ということにしたいかがでしょうか。</p> <p>③：「人」を大切にしたい当町の気質について記載。「その時代時代のニーズにあった自然との触れ合い」では、古くからの湯治場から近年のスキーリゾートまでを意識しています。</p> <p>②：①と③をつなぐ橋渡しを、当町の歴史になぞりながら記載。</p> <p>④：まとめ。海外の観光客のことも記載した方が良く、「世界中」を追記しました。</p> <p>「あたたかい雪」という表現は45P、46P、75Pにも記載があり、直すのは難しい作業かもしれませんが、ご検討いただければ幸いです。</p>	<p>目標像については、先行して議論していた（一社）湯沢町観光まちづくり機構のDMO確立形成計画でのコンセプトを一部踏襲しています。目標像の実現に向けてオール湯沢で取り組めるよう、わかりやすい情報発信に努めてまいります。計画は定期的に見直しを行いますので、またその際に目標像を再検討することになった場合は、参考とさせていただきます。</p>	
-----	----	--	--	--	--

2-5	49	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針	<p>「各主体の特徴と役割分担」の「100年後も雪国であるために」について 「100年後も雪国であるために」という言葉からは、個人的には地球温暖化への取り組みということが真っ先に想起されます。</p> <p>これまで、「100年後も雪国であるために」というフレーズはあまり地球温暖化問題とは結び付けられていなかったのではないかとと思いますが、日本においても消費者は日用品や洋服を買う際などによりエシカルな、より持続可能な取組をしている企業の製品を選ぶようになってきています。当町においても、豊かな雪（自然）に生かされる者として地球温暖化問題への真摯なメッセージを発したり、町を中心に事業者・住民みんなが共同して小さなことでも取り組んでいけるようなことができれば、当町のブランド向上、そして他のリゾート地との差別化要因の一つになり得るのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>「100年後も雪国であるために」は雪国観光圏のコンセプトですので、49Pの修正を求める意図ではありませんが、今後の当町の取り組みとしてご検討いただければ幸いです。</p>	<p>ご意見のとおり気候変動への対応は重要な課題です。本計画においても「基本方針②雪国文化を育み、産業と経済を支える「自然環境に配慮した観光まちづくり」を推進します」や「戦略5:町内外が一体となっておこなう自然環境の保全」において自然環境を意識した取組を入れています。理想だけではなく、具体的な行動に反映させていくことが重要であると考えています。</p>	
2-6	64	4. 目標実現のための戦略	<p>「7-2. 地域内へのわかりやすい情報共有(インナープロモーション)」について SNSは7-1にしか記載がないですが、7-2にもSNSを記載してほしいです。</p> <p>インナープロモーションとして町民向けに発信する情報として「行政や観光関連組織の取組や観光振興による効果(例:観光消費額や経済波及効果等)」とありますが、こういったものであれば例えばTwitterを湯沢町のアカウントで利用して発信することで、日頃広報ゆざわを紙では読む機会の少ない若い世代にも情報を届けられるのではないかと思いました。現に私は広報ゆざわを湯沢町ホームページからPDFで読むことが多いですが、広報ゆざわの最新版をアップしたことをTwitterで周知する、といった大きな労力やコストをかけずにできるところから始めてみるというのも良いかと思いました。</p>	<p>現在、町のTwitterアカウントは運用されていませんが、今後の利用について、町の広報担当に提案します。計画の記載はこのままとします。</p>	
2-7	75	6. 成果指標(KPI)	<p>成果指標(KPI)について 「自然環境に配慮されていると感じている人の割合」とありますが、「環境保全に配慮されていると感じている人の割合」（総合計画64P）の誤記ではないでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおりです。「自然環境に配慮されていると感じている人の割合」を「環境保全に配慮されていると感じている人の割合」に修正します。</p>	有
2-8	77	7. 計画推進のしくみ	<p>計画推進の仕組みについて 計画管理について「メンバー別途検討」とありますが、どのようなプロセスでメンバーが決定されるのか追記していただけないでしょうか。</p>	<p>メンバーについては、行政を含む観光関連主体など計画を実施するメンバーと第三者である外部委員を想定しています。計画にはその旨を追記します。</p>	有

2-9	49	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針	<p>「3.湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針」の行政の役割として「DMO(新組織)サポート」とある点について</p> <p>湯沢町観光まちづくり機構（以下「機構」と言います。）は、町観、エリア協議会、地区別の観光協会の「三重構造」の再編・最適化も目的の一つとしていますが、このような町内の多様なステークホルダーとの調整を行い、当町の中心として観光施策を推進していく組織として機構の運営には町民に対する透明性が必要だと思えます。</p> <p>国内のDMOを見ますと、佐渡市の(一社)佐渡観光交流機構、福島県いわき市の(一社)いわき観光まちづくりビューロー、群馬県草津町の(一社)草津温泉観光協会、大阪府泉佐野市の(一社)泉佐野シティプロモーション推進協議会においては、それぞれのホームページにおいて、DMOの定款、決算書類、役員名簿等の情報公開が行われています（一般社団法人以外のものとして、神奈川県箱根町の(一財)箱根町観光協会、兵庫県神戸市の(一財)神戸観光局、兵庫県姫路市の(公社)姫路観光コンベンションビューロー等もあります。）</p> <p>機構におかれましても上記のような必要な情報公開が行われるよう、湯沢町の方から適切な働きかけを行うことについても役割として本計画に追記するか、追記しないとしても今後の湯沢町の方針としてご対応をお願いしたいと考えます。</p>	ご意見のとおり、（一社）湯沢町観光まちづくり機構についての情報公開は早急に取り組むべきと考えます。計画には記載しませんが、同機構にその旨を伝えます。	
2-10	13～40	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化 (2)外部環境の変化	<p>13P～40P「湯沢町観光を取り巻く現状と課題」について</p> <p>13Pから40Pの「湯沢町観光を取り巻く現状と課題」に関する資料を拝見しますと、「課題」に関する言及がなく、「現状」についての記載に留まっている箇所が多いように見受けられました。</p> <p>2013～2022年版の観光振興計画の21P以下（第3章 湯沢町観光の問題点と課題）では、各トピックについて「●●●が問題です。」と問題の認識・特定をする表現が用いられていますが、本計画13Pから40Pにつきましても、可能な限り同様の表現を用いて問題の認識・特定をしていただくと、今後10年間の当町の観光の町づくりの羅針盤としての本計画の機能をより高められるのではないかと思いました。</p>	ご意見を参考に、よりわかりやすい記載に改めます。	有

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
3						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見	町の考え方			計画修正
3-1	8~10	1. 計画の背景と目的 (4)前計画の検証	<p>・ p.8~10の前計画の検証について 前計画を自己評価した内容が書かれています。沢山の取組があり、これら全てに取り組むのはとても大変だったと思います。お疲れ様でした。ただこの件で気になる点が3点あります。</p> <p>①自己評価が1~5まである中で、ほぼ全て3というのは、自己評価としての機能がなされているのか、疑問に感じられる人が多いのではないかと想像します。そのような疑念を払拭するためにも、なぜそのような評価になったのか、その点まで開示しないと、正しい自己評価とは言えないのではないのでしょうか？</p>	評価の詳細については参考資料で公開します。評価の方法については、今後検討したいと考えています。			
3-2	8~10	1. 計画の背景と目的 (4)前計画の検証	<p>②自己評価を行政・機構・観光圏の三者それぞれで行っているのは素晴らしいと思います。ただこの自己評価について、これまでの取組の課題なども書くべきではないかと思えます。</p>	評価の詳細については参考資料で公開します。評価の方法については、今後検討したいと考えています。			
3-3	8~10	1. 計画の背景と目的 (4)前計画の検証	<p>③前計画において、「湯沢町観光が抱える問題点」が書かれていますが、①春から秋の集客力の低さ②観光資源の認知度不足④湯沢町の高齢化、後継者不足などは、今回の計画の課題としても挙がっています。自己評価がすべて「想定通りの事業を実施し、一定の評価ができる」のにこれらの課題が現在も解消されていないのはなぜでしょうか。</p> <p>以上の3点から、自己評価が正当になされていない、前計画に不備があった、などの可能性が考えられます。こちらを明確にするためにも、なぜ自己評価が軒並み3なのか、しっかりと理由を開示し、その評価を分析することが必要ではないのでしょうか。</p>	評価については厳密な達成度の基準がある訳ではなく、その項目に当てはまる事業を実施できたかどうかをふまえて点数化しています。基準や評価方法については引き続き今後の課題として検討していきます。なお、評価の詳細は、参考資料で公開します。			

3-4	13~40	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題</p> <p>(1)内部環境の変化</p> <p>(2)外部環境の変化</p>	<p>・ p.13~40について</p> <p>たくさんの資料を元に湯沢町の現状について詳細が書いてあります。確かに現状に対してしっかりとエビデンスに基づいていることは重要なことですが、下記の2点について問題意識を持っています。</p> <p>①現状についての半分近くはアンケートに基づいています。(湯沢町の歓呼資源の認知度、住民意識、旅行形態、旅行費用額、再来訪希望と満足度、非来訪理由、コロナ禍における旅行の変化)これを現状として正しく認識するためには、どこでどのような形でアンケートを行ったのかを明確にする必要があると思います。極論、駅構内でアンケートを取れば日帰り観光のお客様の母数は増えるでしょうし、滝沢駐車場周辺でアンケートを取れば車を利用するお客様の母数は増えます。どこで、どのような形で、アンケートを行った人数、などを公表する必要があると思います。町のウェブサイトの他の箇所において公表しているのであれば、その公表している箇所を明記することが重要であると思います。基本的に役場の皆様がしっかりとこの辺りも考えてアンケートをされたり、偏りのないよう努められていると信じておりますが、現在の記述内容について問題があるということではなく、計画に記述されている現状認識・課題認識が合っているかどうかを、後日町民が確認したり、精査できないことが問題だと考えています。</p>	<p>湯沢町を訪れる観光客の実態については、「湯沢町観光客消費支出額調査」に基づいています。本調査は夏と冬に越後湯沢駅でお客様にお声がけして実施しているものです。一方で、季節が夏と冬のみで春や秋、通年の実態が把握できていないこと、サンプル数が少ないこと等が課題として挙げられます。戦略8-2にもありますとおり、今後はこうした観光統計の見直しも予定していますので、調査方法などの見直しや調査結果の共有などを検討していきます。</p>	
-----	-------	---	--	---	--

3-5	13~40	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化 (2)外部環境の変化</p>	<p>②現状認識については多くの資料を元に論じてありますが、その結果どのようなことを課題として認識しているのかが見えてきません。一例を挙げると、湯沢町の地価が下落している現状認識ですが、これによって何が課題になっているのでしょうか？地価の下落により、固定資産税が落ちており、税収が落ちている、というのであればこの現状認識は観光振興計画に記述するものではないと考えます。地価の下落が観光地としての評価が下がった結果として考えるのであれば観光振興計画に記述する必要があると思います。現状認識を踏まえてどのように町が課題を認識しているかが重要であると考えます。</p> <p>いくつか課題の例を挙げるとすれば、 例1) p.13にある人口減少・高齢化については、人口減少・高齢化により「観光産業の担い手不足」とありますが、そのために①移住促進、②外国人労働者の雇用促進、③DX化、④構造改革の必要性など、いくつかの戦略が出てきます。このような戦略があっているかどうかを考える上で、「そもそも人口減少・高齢化は止められない」を前提にして計画を策定するのか、「移住や外国人人材によって補完できる」を前提にするのかで計画の方向性や優先順位が大きく変化しますし、町としての態度も変化すると理解しております。この方向性・優先順位を決めるためには、町が「人口減少・高齢化」という現状に対して、どのようなことを課題として認識しているかが大変重要になりますが、今回の観光振興計画案にはこのような課題がないように見受けられます。また一部計画後半の戦略部分に課題と思われる部分も見受けられますが、計画として分りやすくするためには、その課題部分をしっかりと「2.湯沢町観光を取り巻く現状と課題」に記載することが大切だと思います。</p>	<p>地価の下落は地域ブランドの低下を示す一つとして紹介しています。計画にはその旨を加筆します。</p> <p>(例1) 人口減少や高齢化への対応は町全体に関するものであるため、総合計画や総合戦略に示されており、それに基づいて取り組んでいきます。</p>	有
3-6	23	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化</p>	<p>例2) p.23にある移動手段の現状分析ですが、自家用車と新幹線の利用率の分析が足りないように感じます。そもそも雪国観光圏の他地域との比較は、新幹線が停まる地域とそうでない地域で変わるのは当たり前のことと思います。分析として必要になるのは、湯沢の町内（湯沢つちたるエリア、苗場かぐらエリア、湯沢神立エリアなど）において、どのエリアにどの移動手段で来ているお客様が多いのかわ知ることの方がよっぽど重要であると考えます。それによって、例えば湯沢神立エリアは新幹線利用が多いのであれば、湯沢神立エリア関連の振興を考える上では駅を中心に考えるべきですし、苗場かぐらエリアの自家用車利用がとりわけ多いのであれば、道路沿いの看板に資金を投入すべきです。（あくまで例えばの話です）町内において公正公平に観光を振興するのであれば、現状分析をもう少し詳細にするべきであると考えます。</p> <p>過去の現状認識の方法の問題を指摘するのは建設的ではないので、もしこれからでも変えられるのであれば、今後はそのように変える、というような文言を入れてもらいたいと思います。</p>	<p>現状のデータでは把握が難しい状況ですので、ご意見を参考に今後の観光統計のあり方を検討していきます。</p>	

3-7	31	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (2)外部環境の変化	例3) p.31訪日外国人の全国的な増減のグラフがありますが、湯沢の外国人観光客数と重ねてグラフを見る必要があるのではないのでしょうか？全国的に増えているのに湯沢ではあまり増えていないのであればそれは課題ですし、湯沢の方が全国平均より増えているのであれば、それは湯沢の強みです。	湯沢町宿泊者数の資料に、宿泊者数（湯沢町及び全国）の増減率のグラフを追加しました。	有
3-8	32	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (2)外部環境の変化	例4) p.32にて域内旅行の割合が増えているグラフがありますが、新潟県内のお客様の増加割合は他の県内の市町村と比べて多いのか少ないのかという資料が必要ではないのでしょうか。その資料の結果によって、今後の域内のブランド力に力を入れるのか入れないのかの判断ができると思いますし、戦略8-4にある感染症リスクなどへの戦略にも影響するのではないのでしょうか。	本調査結果から新潟県のみを抜粋することは難しいです。また、「湯沢町観光客消費支出額調査」を元に過去と比較することができますが、本調査は一部の観光客に対するアンケート調査なので、実際に増えたかどうかを測れるものではありません。	
3-9	13・29	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化	<p>・ p.13⑤観光資源の新規オープンや自然資源の魅力向上について</p> <p>道の駅みつまたのオープン、平標山の人気などが記載されていますが、これらは関係事業者の努力もあると思いますが、行政であったり町観であったりの努力も関わっているのではないのでしょうか？もしこちらの魅力向上に行政や町観が関わっていたのであれば、それは計画に記載すべきだと思います。またもう一つ重要な視点として、この魅力向上について、どこまで行政・町観が戦略的に動いていたか、を分析することであると思います。できていたのであれば、それを強化すべきことを記載していただきたいですし、できていなかったのであれば、戦略的に動くためにはどうすべきかを課題として記載すべきだと思います。</p>	観光政策の立案と実施体制に対するご要望として受け止め、今後の参考とさせていただきます。	

3-10	13、 29	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題</p> <p>(1)内部環境の変化</p> <p>(2)外部環境の変化</p>	<p>・ p.29の外部環境の変化について</p> <p>外部環境の変化に人口減少が記載されていないのはなぜでしょうか。内部環境の変化としてp.20、p.21に観光客数の推移、宿泊者数の推移が記載されておりますが、そもそも日本の人口が大幅に減少していく傾向にあり、また旅行できる年齢層の方が大幅に減少している現状において、「日本全体の人口減少→国内の市場の大幅な縮小」という視点が無いのは大きな問題です。市場規模が今後更に減少する国内事情を無視して、簡単に観光客数を追うのは無理があります。観光客数を追うのであれば、それが現実的であると説得する資料が必要であると思います。</p> <p>またp.13内部環境の変化として人口減少・高齢化による町内の観光事業の担い手不足を記載しておりますが、人口減少・高齢化が町内の観光事業の担い手不足に直結しないと考えています。ここでいう「観光事業の担い手不足」というのは「観光事業者の後継者不足」であると思われませんが、後継者が不足していたとしても、新しく事業を始める人がいれば、担い手不足にはなりません。</p> <p>また新規事業者よりも後継者が不足している事業者数が多く、改善するのが難しいのであれば、そもそも過去の500万人などの観光客数を受け入れることができる事業者数を確保することができないのでしょうか。</p> <p>観光客数を追うための方策として「インバウンドの強化」は考えられますが、それを実現するためには①現在の事業者が「多様な旅行者」に対応できるように変化する必要がある、②事業者数を維持・増加させる必要がある、と思われまます。この2点を実現するのは正直難しいと思います。もし可能であるとお考えであれば、そのような資料を計画に記載すべきだと思います。</p> <p>現実的に全国的な人口減少は止められないと考え、人口減少しても持続的に観光地としてやっていけるように方策を立てる方が賢明であると考えます。この内容はp.29にもある「価格競争から価値競争の時代へ」ともつながる視点であると考えます。</p>	<p>人口減少については「内部環境の変化」に入れていきます。</p> <p>本計画では、観光客数だけを追おうとは考えておりません。そのため、成果指標の部分にも入込観光客数の数値は含めておりません。今後は人口減少に伴い、旅行者数が減少していくこともありますので、人数よりも消費額を追う必要があるといえます。</p> <p>その考え方は、6.成果指標（KPI）の「成果指標の考え方」でも記述しています。</p> <p>観光事業の担い手不足については人口減少だけが要因ではなく、観光業が魅力的な産業であることが必要です。そのためにも、生産性の向上や労働環境の改善、やりがいを感じられるようにするために事業者同士のネットワークの構築などを「戦略6:観光産業の構造改革・生産性の向上」で掲げています。</p>	
------	-----------	---	--	---	--

3-11	38・29	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題</p> <p>(1)内部環境の変化</p> <p>(2)外部環境の変化</p>	<p>・ p.38とp.29にあるSDG s について</p> <p>p.38にはSDG s 全体のことが記載されていますが、p.29のSDG s の所には「自然環境」の視点のみでしか記載されていない。SDG s の軸は、自然環境だけでなく、地域としての持続性や、文化の継承、多様な人を受け入れる素地など、いくつもあります。その中で自然環境にのみ言及しているのはアンバランスであり、本来のSDG s の考えとかけ離れていると思います。</p> <p>本来のSDG s の観点で湯沢の観光を考えると、「観光地としての持続性」「雪国文化の持続性」「観光事業者の持続性（事業承継など含む）」「新しい事業者を受け入れる素地」などがあり、それを踏まえて大前提としての「自然環境の保護」がある、という書き方であるべきではないでしょうか。</p> <p>そしてp.29ではDXについても書かれていますが、「生産性向上」「利便性向上」に主眼が置かれています、「地域の持続性」に主眼を置いた上で、「生産性向上」「利便性向上」に言及すべきだと思います。生産性向上・利便性向上はあくまでもツールであり、目的ではありません。何のために生産性向上・利便性向上を目指すのかを記載していないのは、地域戦略がぶれる元になると考えます。</p>	<p>ご意見のとおり意図で使用していますので、誤解のない表現に改めます。</p>	有
3-12	35	<p>2. 湯沢町を取り巻く現状と課題</p> <p>(1)内部環境の変化</p> <p>(2)外部環境の変化</p>	<p>・ p.35テレワーク、ワーケーションについて</p> <p>テレワーク・ワーケーションが普及していることについて書かれていますが、これがどのように湯沢と関わっているのかを記載していただきたいと思います。他の地域でテレワーク・ワーケーションをしているお客様がいらっしゃいますが、それがどのように湯沢と関わるのか。単に元々関東からのお客様が多いからなのか？交通の便が良いからなのか？またそれだけでなく、その振興に取り組むことによって得られるメリットが何なのか。戦略的にテレワーク・ワーケーションを町が捉えていることを記載すべきだと思います。</p> <p>その中で特に注目したいのが「観光地としてのテレワーク・ワーケーション」ではなく、「企業・利用者にとってテレワーク・ワーケーションをする場としての湯沢町とは」という視点を盛り込んでいただきたいと思います。</p>	<p>35頁の資料は、一般的にこういったスタイルも注目されていますという紹介の意図で使用しています。戦略3の「3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備」及び戦略6の「6-1.宿泊産業活性化」にワーケーションについて加筆します。</p>	有

3-13	42・46	<p>3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針</p> <p>(1)目標像</p> <p>(2)基本方針</p>	<p>・ p.42とp.46の「湯沢町が目指す観光」の「目標像」と「基本方針」について</p> <p>目標像の「あたたかい“雪と人”が出迎える、世代を超えて記憶に残るまち・湯沢」と基本方針の「通年型観光」「自然環境に配慮」「利用者目線」「次世代に継がせたい」のキーワードはとても共感でき、素晴らしいものだと思います。それぞれの要素は素晴らしいものだと思いますが、その優先順位や、組み合わせを変えた方が良くと思います。</p> <p>具体的には「次世代に継がせたい」とある「地域としての持続性」というものにもっと主眼をおくべきだと考えます。なぜ「通年型観光」なのか？事業者が通年でお客様を迎えることができれば、「観光で生活ができるから」、「通年で雇用が生まれるから」、「通年で町が活性化するから」です。これは「雇用の持続性」、「事業の持続性」、「地域の持続性」につながります。</p> <p>なぜ「自然環境に配慮」なのか？「ウィンタースポーツは自然環境に左右されるから」「雪国の文化は自然と共に育まれたものだから」です。ウィンタースポーツを続け、先人たちの想いを大切に持続させるための根幹だからです。</p> <p>なぜ「利用者目線」なのか？「事業者目線ではお客様に選ばれないから」「主観ではお客様の不便を理解できないから」「内部の感覚では世界の変化についていけないから」です。お客様に選ばれ続け、マンションを持ち続けてもらうために必要です。</p> <p>なぜ「雪と人があたたかく」なれるのでしょうか？雪の恵みに感謝し、観光のお客様に感謝するから。そして隣人同士で協力して乗り越えるからです。なぜ「世代を超えて記憶に残る」のでしょうか？」おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんが湯沢に遊びに来ていて、「湯沢は良いところだからオススメだよ」と言ってくれるからです。</p> <p>地域の持続性こそが全ての根幹にあるので、せめて目標像の中に「地域の持続性」を入れていただきたい。またそれもダメであれば、基本方針の1番目に持続性を持ってくるべきだと考えます。</p>	<p>持続性については目標像・基本方針の全ての根幹にあるものです。計画は定期的に見直しを行いますので、またその際に目標像を再検討することになった場合は参考とさせていただきます。</p>	
------	-------	---	--	--	--

3-14	48~ 49、 77	<p>3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (4)各主体の特徴と役割分担</p> <p>7. 計画推進のしくみ</p>	<p>p.48～49のDMOの記載について 今後湯沢町の観光の根幹になると思われる湯沢町観光まちづくり機構について、もう少し詳細を記載していただきたいと思います。</p> <p>DMOがうまく行くためには、いくつか条件があると思いますが、私が考えているのは4点です。①観光事業者以外の事業者がどれくらい深く関わってもらえるのか。②住民がどれだけ理解し、関わってくれるか。③DMOの意思決定の透明化がどれだけ進むか。④利用者にとって分かりやすいか。</p> <p>p.48～49において、「観光事業者」については書かれていますが、DMOにとって重要な「観光事業者以外の事業者」が※以外に含まれていないのは問題だと考えております。観光という産業が、その他多くの産業にまで波及する産業であることをもっと大きく記載すべきだと思います。</p> <p>またこれまで以上に観光に直接関連しない事業者・住民が多く関わる以上、DMOの事業の透明化が必要であり、その情報や意思決定などの透明性についても言及があるべきだと思います。またp.77にある湯沢町観光戦略会議についても透明性についての言及があるべきだと考えます。</p> <p>また行政・雪国観光圏との連携についても不明確ではないでしょうか。まだできたばかりの組織で、組織の統合がこれからのため、詳細までは記載できないにしても、ある程度の方向性についてはもう少し記載があってしかるべきかと思います。また記載できないにせよ、計画を前期・中期・後期でわけて考えているのであれば、「中期に詳細を発表する」などの記載があっても良いのではないかと思います。</p> <p>また効果測定指標（KPI）の記載がありますが、これは行政が調べるのか、DMOが調べるのか不明瞭に感じます。客観的に調査するのであれば行政・観光圏などが行う方が良いのではないのでしょうか？</p> <p>行政との関わりについて「条例・法律関係の整備」や「再開発・景観整備・ハード整備など」という記載がありますが、これは誰が主導なのか不明瞭です。本来のDMOの機能を考えれば、これらの制定には当初からDMOが関わるべき事案ですし、かつDMOが主体的に働きかけるべき事案だと考えます。その連携についてももう少し踏み込んで記載すべきではないでしょうか。現在の記載の仕方だと、行政はDMOの上位組織という位置づけに感じます。DMOのあるべき姿としては、行政とより対等な関係であるべきと考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ DMOの課題と今後の取り組みについては、戦略8の「8-1.観光関連組織の再編と組織改革」に追加しました。 ・ 「事業者」の例をよりわかりやすい表現に改めます。 ・ 観光戦略会議については、透明性の確保に努めます。 ・ 雪国観光圏との連携については、組織改編の途中であり、今後変化するものと思われるので、記載はこのままとします。 ・ 成果指標の数値となる統計データは基本は行政が実施している調査に基づくものですが、今後、DMOがマーケティングの業務を実施することになるのであれば来訪客に対するアンケート調査等はDMOが実施することも考えられます。その点は今後役割分担を検討することになります。 ・ 「条例・法律関係の整備」や「再開発・景観整備・ハード整備など」は基本的に行政が実施するものですが、検討にあたってはDMOも入って行うべきかと考えます。この図ではあくまでも主導的に行う項目を書いており、単体で実施するという意味合いでもなく、上下について記載したものではありません。 	有
------	------------------	--	---	--	---

			<p>また雪国観光圏との連携についてももう少し記載があるべきだと思います。まだ確定していない点があるのであれば、それはそのように正直に記載し、課題として明文化した方が良いと思います。</p> <p>最後にDMOの在り方についてですが、p.49の図は非常に分りやすい反面、誤解を招く恐れがあるのではないかと危惧しています。本来の観光まちづくりの考え方としては、湯沢町観光まちづくり機構が来訪者・事業者・住民に働きかけることにより、来訪者・事業者・住民が相互に関与し合う構図を表現できないでしょうか。DMOの最終的な目標はDMOがなくても好循環が地域に生まれることであると思います。</p>		
3-15	50～68	4.目標実現のための戦略	<p>・ p.50～68の戦略について</p> <p>8つの戦略、どれも素晴らしいと思います。しかし危惧すべき点があります。現在の人員・資金でこれを同時に進めることはできるのでしょうか？おそらく難しいと思います。どれも大事な内容ではありますが、限られたリソースを使って、効果的に進めるためには、優先順位を決める必要があると考えます。</p> <p>現在の戦略の書き方だとどれを有線するべきか見えてきません。組織の形が明確になっていない、という面はあると思いますが、上記で述べたように、町としての課題の精査・目標像の設定の仕方が足りない可能性はないでしょうか？今のままだと、とりあえずできそうなところから事業を始める、という流れになり、軸が定まらないまま進んでしまうのではないかと危惧しています。これは行政・湯沢町観光まちづくり機構・雪国観光圏との役割分担においても同じことが言えると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、これらの戦略を確実に実施していくためには、観光財源の確保や計画を確実に実施する仕組みが重要な課題になります。</p> <p>なお、観光振興計画はアクションプログラムとは異なるため、どこまで詳細に書き込むかが難しい点になります。まずは本計画をふまえて、行政、DMOが何から取り組むかを検討することになります。</p>	
3-16	50～68	4.目標実現のための戦略	<p>・ p.50～68の戦略の「実施主体」の表について</p> <p>それぞれの施策について「○」「◎」「無記載」の3種類がありますが、それぞれどのような意味を持つのか書かれていないので、具体的に誰がどのように実施するのかかわからないので、それぞれの意味を明確にしていきたいです。</p> <p>また実施主体の詳細についても、「観光関連組織」については、決定していないところもあるかもしれませんが、決定しているものについては「湯沢町観光まちづくり機構」なのか「雪国観光圏」なのか記載してもらいたいと思います。</p>	<p>・ ◎は主導的に実施、○は連携して実施・関与することを意図しているため、その説明を記載します。</p> <p>・ 観光関連組織については、再編を予定している現段階で名称を記載することは難しいと考えます。</p>	有

3-17	52	4.目標実現のための戦略	<p>・p.52のガイド組織の構築について</p> <p>ガイド組織の構築について記載されていますが、ガイドの組織を作る、だけでは「持続性」がありません。組織は活用されなくては廃れます。湯沢町に限らず、多くの市町村で、人材バンクや空家バンクなど、登録するだけして、活用されていない事例は多くあります。</p> <p>これは行政であったり、組織が悪いということではなく、それを活用する仕組みを一緒に作っていない、構造の問題だと考えます。組織化するのであれば、それを活用できるシステムの造成や、旅行商品の造成も含めて記載をするべきだと思います。</p> <p>またガイド組織の主体の表に「住民・住民団体」が含まれていないのは疑問です。住民こそが素晴らしいガイドになる可能性があり、新しくガイドになる人を増やすことも視野に入れるべきだと思います。</p>	<p>・ガイド組織の活用等については、ガイド組織化の際に検討することとなりますので記載はこのままとします。</p> <p>・「ガイド組織の構築」となりますので、実施主体の記載はこのままとします。なお、ガイド組織の運営については、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>	
3-18	56	4.目標実現のための戦略	<p>・p.56の「スキーをしない人も楽しめるコンテンツ・空間づくり」について</p> <p>現在湯沢町民でスキーやボードをしない人は多くいると考えています。そのウィンタースポーツをしない住民こそこの戦略において重要なポイントになるのではないかとと思うので、「住民・住民団体を○」にすべきだと思います。</p>	<p>コンテンツづくり・空間づくりとなりますので、実施主体の記載はこのままとします。なお、実施にあたっては、住民の視点を参考にさせていただきます。</p>	
3-19	57	4.目標実現のための戦略	<p>・p.57「居心地の良い景観・街並みの整備」について</p> <p>たくさんの魅力的な方策が描かれていますが、ぜひこちらに加えていただきたい内容があります。それは「湯沢学園」との協同です。今後の観光において、「学び」という側面は大きな要素になってくると考えられます。体験型観光などは分りやすい例ですが、今後はそれ以上に深掘りする必要があると思います。その中で「共に学ぶ」という要素はお客様にとって非常に魅力的です。そして湯沢に住んでいる子ども達にとってもこれは大きな機会です。域外から来たお客様と共に活動することによって得られる刺激はもちろん、地域への愛着なども造成されるまたとない機会と考えます。</p> <p>ここの戦略以外でも、p.65の「内外プロモーション」、p.62の「農業、製造業、商業などを含めた湯沢町の観光に関わる全ての人の連携体制の強化」「観光人材確保・人材育成の仕組みづくり」に入れても良いと思いますが、ぜひ観光振興計画のどこかに、教育委員会や湯沢学園との共同プログラムなどの記載を大きく入れてほしいと思います。</p>	<p>戦略6の「6-4.人材確保・人材育成の仕組みづくり」に、観光等に関する教育の機会を増やしていくことが記載されており、湯沢学園ではすでに取組が行われている旨を追記しています。また、実施主体の行政欄に教育委員会を追記しました。湯沢学園との連携に関しては、今後検討していきたいと考えます。</p>	有
3-20	58	4.目標実現のための戦略	<p>・p.58「観光客・住民の動線をふまえたランドデザイン」について</p> <p>湯沢町全体に関わるデザインについて、◎になっているのが観光事業者になっていますが、全体に関わるものであれば、湯沢町観光まちづくり機構が◎になるべきではないでしょうか？（◎と○の違いが分からないので、勘違いであつたらすみません）</p>	<p>町全体に関わるものなので、ご意見を参考に行政を◎に修正します。</p>	有

3-21	58	4.目標実現のための戦略	<p>・p.58「歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備」について</p> <p>◎が行政のみになっていますが、湯沢町観光まちづくり機構も◎になるべきではないでしょうか？利用者目線の空間の整備については、湯沢町観光まちづくり機構が主体的に動くべきだと思います。</p>	◎は最も主導的に動く主体につけていますが、◎と○の区別がわかるよう補足しました。主体という意味では街並み整備はどちらかというと行政が主体の方が動きやすいと考えますのでこのままとしますが、（一社）湯沢町観光まちづく機構は、一緒に考えていく必要はあります。
3-22	61	4.目標実現のための戦略	<p>・p.61の「町内外が一体となっておこなう自然環境の保全」について</p> <p>2点あります。</p> <p>①「環境負荷の少ない観光地づくり」</p> <p>これは法改正や、補助金の創設など、行政も大きく関わる分野であると思います。そのため行政も◎になるべきではないでしょうか？</p>	◎は主導的に動く主体につけていますので、このままとします。
3-23	61	4.目標実現のための戦略	<p>②追加すべき施策について</p> <p>湯沢町では、河川改修や森林保全、その他公共の建築・構造物の改修などにおいて、自然環境を考慮した工事の手法・季節の選定・デザインの選定などを行っていると思います。一見観光と直接関わらない事業についても、観光のお客様や事業者が理解できるような情報発信および理解が必要だと思われるため、1つの独立した施策とすべきだと思います。</p>	戦略3の「3-4.湯沢町ならではの風景を楽しめる視点場の発掘と整備」で自然景観についての発信について記載しているため、このままとします。
3-24	62	4.目標実現のための戦略	<p>・p.62「宿泊産業活性化」について</p> <p>記載されているように「様々な規模の宿泊施設が立地しています」とあります。活性化についても、本来はその規模に応じた活性化の仕方が論じられるべきです。家族経営の宿と社員が何人もいる宿では必要な方策が違います。そこを認識し、規模に応じた活性化を行う、と記載していただきたいと思います。</p>	「様々な規模の宿泊施設が立地しています」と記載しており、その取組を支援していくという考えとなりますので、このままとします。
3-25	64	4.目標実現のための戦略	<p>・p.64「インナープロモーション」について</p> <p>インナープロモーションを「広報などで」と記載していますが、もう少し踏み込んで、「広報以外の方法も合わせて発信」などに変更すべきだと思います。これまでも広報では発信をされていましたが、今まで通りだと伝わっていない住民・事業者も多くいたと思います。これらの課題を乗り越えるためにも、他の方策を模索するように、記述の内容を変更すべきだと思います。</p>	広報「等」には様々な発信方法も含むので、記載はこのままとします。

3-26	72	5. エリア別の方針	<p>・p.72の「湯沢つちたるエリア」について <今後の取組事例>の中に下記のものを入れるべきではないでしょうか？</p> <p>①かたくりの里やホタルの里など、自然環境保護の視点の取組</p> <p>②「今後の受入客層の検討」とあるが内容が不明確だと思います。ポストコロナの合宿を念頭に置いているのであれば、私有体育館の活用などの記載があっても良いのではないのでしょうか？（苗場かぐらエリアも同様）</p> <p>③越後湯沢駅からの二次交通体系の見直し・改善・利便性向上（苗場かぐらエリアも同様）</p>	<p>①については実施済みです。今後の取組事例についてはあくまでも例となりますので、この内容に縛られる必要はないものと考えます。記載はこのままとします。</p>	
3-27	71	5. エリア別の方針	<p>・p.71の「苗場かぐらエリアの方針」について <今後の取組事例>の中に下記のものを入れるべきではないでしょうか？</p> <p>三国街道を含めた、湯沢の歴史の集積はかなり多いエリアにも関わらず、歴史に関わる記載がありません。伊米神社、池田家など、特記すべき資源があるので記載すべきだと思います。</p>	<p>歴史的資源に関することについては、ご意見のとおりに加筆します。</p>	有
3-28	77	7. 計画推進のしくみ	<p>・p.77「計画推進の仕組み」について 宿泊統計調査手法の見直しと実施、とても重要だと思います。事業者目線だけでなく、利用者目線でも、効果的かつ不便のない調査ができるようにしていただきたいと思います。</p> <p>最後に、こちらの計画を作成する上で、時間も人員も資金も豊富にない中、ここまでの計画を作成されるのは大変なことであったと想像します。関わった皆様に最大限の敬意を持っております。ただ私も湯沢の町をより良くしたいという想いで今回初めてのパブリックコメントを提出させていただきました。至らない言葉遣いなどございましたらご容赦ください。</p> <p>湯沢の町を良くするため、住んで、訪ねて、楽しい場所となるように皆様と一緒にがんばりたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>	<p>計画推進のしくみについてのご意見やご要望につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>	

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
4						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
4-1	47	3. 湯沢町 が目指す観 光の目標像 と基本方針 (3)ターゲッ トの考え方	<p>○ターゲットについての考え方</p> <p>1. 現在の旅行客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P48での「ターゲットの考え方」において「40代～30代が中心」となっています ・ P23の年齢別のグラフを見ると確かに40代が多く見えますが、このグラフは夏と冬で分かれていますから、冬期の旅行客の多さの補正をかけた上で見なければ事実を取り違えるのではないでしょうか？ ・ 実態としては、50代の客層がp23のグラフで見えるよりもっと多いのではないかと思います 		<p>ご意見を参考に、「(3)ターゲットの考え方」における記載の「40代～30代が中心となり」を「夏場は40代、冬場は50代が多くなり」に修正します。</p>		有
4-2	47	3. 湯沢町 が目指す観 光の目標像 と基本方針 (3)ターゲッ トの考え方	<p>2. 今後の旅行客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同様にp48についてですが、グラフは「全世界における人口の年代別比率」を示しているものと思われます ・ そういった意味では、デジタルネイティブ世代が圧倒的に多いのは事実です ・ 一方で、日本国内や、実際にターゲットとなる国は高齢化が進んでおり、この比率とはかなり様子が異なってくることが想定されます ・ 結論として若い世代に適応していくこと自体は全く異論はないのですが、本グラフの使い方など解釈の仕方はかなりミスリードな部分があると思いますので、方針を合理的に説明する上では、より適切なデータの使い方をすべきかと思えます 		<p>今後はインバウンドもターゲットの一つになってくるため、世界的な潮流を把握しておく必要があるという意味で引用しています。また、デジタルネイティブが旅行者層の中心になってくるのは国内外に限らないことです。その旨は文中にも記述があります。</p>		

4-3	47	<p>3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (3)ターゲットの考え方</p>	<p>3. 具体的なターゲットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P48を読むと、結果として「全世代に対応します」という結論になっているように受け取れますし、対象が国内なのか、インバウンドなのか。インバウンドだとしたらどの地域なのか、というのがはっきりしておりません ・ もちろん、本計画はあくまで「計画」であって、大筋の方向性を示すものであり、具体性を示すものではないことは理解をしておりますが、ある程度の「ターゲット」を設定しなければその他の戦略も「誰を狙っているのかわからない」ものになってしまうのではないのでしょうか？ ・ これは個人的な見解ですが、やはり観光においては「リピート」の考え方が非常に重要であって、「何度も来てもらえる」ことを狙っていくのは定石の戦略であると思います ・ そういった意味で、やはり若い世代に早くから湯沢の魅力に気づいてもらうということが重要になると思います。またその世代にはすでに子供がいる方も少なくないでしょうから、さらに子ども時代からの湯沢での旅行体験を提供できることとなります ・ このことは単に「現在人数が多いから」ということではなく、例えば「生涯における今後の旅行回数に占める割合」などで考えることで、若い世代を狙う合理性を担保できるはずだと思います ・ そうすると必然的にデジタルネイティブ世代が「重要なターゲット」となり、各戦略もその前提を置いて考えることができるようになるかと思えます ・ P52にも一覧がある現在の各戦略は、ターゲット設定が弱いために、全方向的で無難な戦略になっているようにも見受けられます ・ 全体の方向性として異論がある訳ではありませんが、そこをより具体的にすることで、今後、戦略のテイストもよりエッジの効いたものになることを期待いたします 	<p>町内では様々な担い手や企業があり、それぞれにターゲットを設定している中で、町としてターゲット層を絞って示すことは難しい状況です。</p> <p>ご意見のとおり、リピーター対策は重要であり、若い世代から湯沢町の魅力を知っていただくことは重要ですので、その点は意識しています。例えば、戦略2のスノーリゾートづくりはスキーをしなくなってきた若年層を特に意識しています。</p> <p>一方で、先述した通り、若年層を中心においた施策とすることは難しく、高齢の方なども含めた多様な世代が快適に楽しめる観光地づくりをおこなっていく必要があると考えます。</p>	
-----	----	---	--	---	--

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
5						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
5-1	6	1. 計画の背景と目的	<p>「1.計画の背景と目的」6ページの内容について、成果目標の「観光客におもてなしの心で接している人」とはどのような状態を指しているのでしょうか。総合計画でも言及はなかったと思いますが、すべての町民を対象にした目標だと思われます。(2)受入れ体制の強化にも「おもてなしの心」の醸成とありますが、具体的な行動指針などがあると意識調査の回答にも一貫性が出るといいますし、観光に直接関わる町民以外もおもてなしの心を意識しやすいのではないのでしょうか。</p>		<p>(1)観光の仕事に携わる方も、そうでない方も、湯沢を訪れるお客様へ歓迎の気持ちを込めて接していただきたいと考えています。</p> <p>(2)おもてなしの心の醸成については、例えば、町の観光政策や取組に関心を持っていただく、困っていきそうな観光客がいらっしゃれば積極的にお声がけいただく等が考えられますが、具体的な取組については、今後、さらに検討してアクションを起こしていきたいと考えております。</p>		
5-2	8~9	1. 計画の背景と目的 (4)前計画の検証	<p>同8、9ページの内容について、行政、機構は自己評価をほとんど「3」とされていますが、できていることとそうでないことをどのように認識されているのかわかりづらい回答になっていると感じます。</p>		<p>ご意見のとおり、現状では判断基準がわかりづらく、どうしても3に集中してしまうというところが見られましたので、今後さらに評価方法を見直しながら運用していきたいと考えています。</p>		
5-3	42	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (1)目標像	<p>42ページの「あたたかい“雪と人”」について、雪がグリーシーズンにつながっているというストーリー性は素敵な表現だと思います。一方で、観光振興計画の目標像としては人によって抱くイメージが異なり、共通認識が難しいのではと危惧します。観光は湯沢町のメインテーマだと思いますので、観光振興に関わるすべての人が一体となって臨めるような体制づくりを期待いたします。</p>		<p>目標像については、先行して議論していた（一社）湯沢町観光まちづくり機構のDMO確立形成計画でのコンセプトを一部踏襲しています。目標像の実現に向けてオール湯沢で取り組めるよう、わかりやすい情報発信に努めてまいります。</p>		

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
6						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
6-1	66	4.目標実現のための戦略	<p>・ P66「戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備_8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施」に関する意見 →評価方法や現状把握に対する課題認識が軽薄ではないか →プロモーションありきの統計整備、顧客管理の戦術になっていないか →観光をプロモートする組織や人材育成をすべきではないか</p> <p>【結論・所感】 ①統計整備やマーケティングを目的にした部署や担当を設けては如何でしょうか。 ②おもてなしをする人材の育成だけでなく、観光であり町をプロモートする人材育成をしては如何でしょうか。</p> <p>→過去現在未来に至るまで、多岐に考えられており、とても多くの時間と労力を掛けられたのを感じました。一方で、現状の把握や課題に対する不明確さを感じます（前提の調査結果や評価基準の情報が薄く、エビデンスに欠けることも要因）。作成した計画を批判したい訳ではなく、根拠のある現状把握、前提条件でなければ幾ら課題を設定されたとしても虚像に対する戦略施策になってしまい、今後施策を立案される方や現場で取り組む方にとっても雲を掴むような取り組みになるので、効果が現れず、疲弊してしまうと思います。</p>		<p>・特に内部環境については現状を詳細に分析できる統計データがなく、言えることが限定されてしまうのが現状です。そのため、戦略8に「8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施」、「8-1.観光関連組織の再編と組織改革」を入れておりますし、戦略6にも「6-4.観光人材確保・人材育成の仕組みづくり」を、を入れております。p77の計画の推進の仕組みにおいても、観光統計の再構築はすぐに着手する方向で検討しております。</p> <p>・これまでの湯沢町の観光振興はプロモーションやイベントの開催に偏っていた点が一つの反省点であるため、本計画では、外向けのプロモーションの前に、まずは地域の魅力づくりや受け入れ環境の整備、観光振興を担う関連組織の再編や強化等を行うことを重視しています。</p>		
6-2	8、66	4.目標実現のための戦略	<p>・ P8「1.計画の背景と目的」にある「評価方法の確立については今後の課題といえます。」とされていますが、P66「戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備」にある「8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施」にて、「観光統計整備」と「マーケティング（CRM導入）」とを混合されているように感じます。</p>		<p>・ p8の評価方法とは、戦略で掲げている取組についての評価を指します。もちろん取組の質的評価に加え、KPIとして設定した指標の達成度もあわせて定期的に確認していきます。</p>		

6-3	62	4.目標実現のための戦略	<p>・P62「戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上」の「6-4.観光人材確保・人材育成の仕組みづくり」にあるように、観光で来られたお客様をおもてなしする人材の確保・育成について記述はありますが、観光をプロモートする人材の育成に関しての記述がないことに不安を感じます。短期的に視ると観光とも密接な地方創生の「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」の「P2.地域における人材支援の充実」を活用し、専門性の高いデジタル人材を「地方創生人材支援制度、企業版ふるさと納税（人材派遣型）、地域活性化起業人、地域おこし協力隊等」という形で確保は出来ませんが、あくまで国としての支援ですし、昨今話題にもなっている「持続的な」町であり、「観光立町」となる為にも「観光を仕掛けていく人材の育成」も計画に加えた方が良いのではないかと思います。能力開拓ではなく、県外から専門人材を確保、町内で連携して観光を盛り上げよう、という印象を戦略を読んで感じます。（以下、内閣府地方創生推進事務局の参照URLになります）</p>	<p>観光をプロモートする人材としては、特に（一社）湯沢町観光まちづくり機構にその役割を期待するところではあるため、戦略8の「8-1.観光関連組織の再編と組織改革」に記述しています。</p>	
6-4	66	4.目標実現のための戦略	<p>【修正要望】</p> <p>・エビデンスのある統計整備とデータ分析、予実差異の小さいマーケティング施策の立案が、今後の情報社会ではより一層重要となるので、P66「8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施」の計画を、「観光統計の整備及びマーケティングの立案を目的としたデータサイエンス部署の組成・次代に向けたデジタル人材の育成」へ修正し、正確性の高い情報集約、マーケティング立案、それらを担う人材の育成を目指す計画に修正されてみては如何でしょうか。</p> <p>→マーケティングという「森羅万象を情報として集約（数値化）、その数値を分析し、未来を描く専門部署や担当」を従来の方々が兼任するのではなく、新たに部署設けることで、問題提起から解決施策までのスピード感、予実差異の縮小を通じて「あたたかい"雪と人"が出迎える、世代を超えて記憶に残るまち・湯沢」の目標像に近付くのは勿論ですが、マーケティングを地消地産することは今後必要な要素だと考えているので計画に加えていただきたいです。</p> <p>（と言いつつ、携わっている多くの方々得意なフィールドで、日々目標達成に向けてやりがいを持ち、ご活躍されることは越後湯沢に舞い落ちる「雪」と同等以上の観光資源（ヒト）になると思っています。将来にバトンが繋がる場作りであり、組織作りをして効果性を高めていく。その中で、既に現場で取り組まれている方々への負担が増やすのではなく、「確保し組成し育成していく」ことは極めて重要なことだと思っているので、ご検討のほどお願い致します。）</p>	<p>・既存の計画においても科学的根拠に基づく観光振興の重要性は大いに認識して戦略を組み立てています。先述しました通り、観光統計やマーケティングのあり方は早急に見直しを行う方針ですし、町と（一社）湯沢町観光まちづくり機構との役割分担も検討していきます。これらのことを重視していることがわかるように、基本方針③の説明文に「科学的根拠に基づき」との記載を追加します。</p>	有

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
7						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
7-1	42	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針(1)目標像	<p>・ P42 湯沢町が目指す観光の目標像 ここで示される目標像は、湯沢町の観光振興のための具体的な行動計画を導き出し、町民及び観光事業者が一体感を持ってその具体的な行動計画を実践していくためのビジョン・指針・羅針盤というべきものです。</p> <p>しかしながら、目標像「あたたかい”雪と人”が出迎える、世代を超えて記憶に残るまち・湯沢」は、スローガン、キャッチコピーといった印象のもので、上記のビジョン・指針・羅針盤として弱く、目標像としてふさわしくありません。また、P46の4つの基本方針との関係性も曖昧であるように思います。</p> <p>例えば、46Pの基本方針②や基本方針④を意識し、「百年先も続く持続可能な観光地」など、より町民にとって求心力があり、行動を起こさせるようなものであって欲しいです。基本方針によりリンクするような目標を設定する必要があると思います。</p> <p>現状の計画案の目標像では、町民及び観光事業者が一体感を持って観光振興に取り組むことができるのか、疑問が残ります。</p>		<p>・ 「世代を超えて記憶に残るまち」という表現に持続可能性の意味を込めています。計画は定期的に見直しを行いますので、またその際に目標像を再検討することになった場合は参考とさせていただきます。</p>		
7-2	46	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針(2)基本方針	<p>・ P46 (2) 基本方針 基本方針に挙げる順番として、④次世代に継がせたい観光産業、を最初に挙げていただきたいです。他の基本方針①②③は、持続可能な観光産業の仕組みづくりを抜きにしては語る事ができず、基本方針④が4つの中で最も重要なものだからです。</p> <p>若しくは、前述の通り、基本方針の④を目標像として格上げしていただくのはいかがでしょうか。</p>		<p>・ 基本方針で掲げた4点は全て重要なものであり、相互に関係するものと考えています。目標像については上記の通り、再検討することになった場合は参考とさせていただきます。</p>		

7-3	47	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (3)ターゲットの考え方	<p>・P47 ターゲットの考え方 ターゲットが不明確だと思います。幅広く取るのは良いのですが、目標像（P42）が曖昧であることから幅広く取らざるを得ないのではないのでしょうか。国内なのか、国外なのか、または国内なら特にどこからなのか、目的はなんなのか等によってもっとターゲットを選別・取捨選択されないと、今後10年の打ち手であるP50以降の戦略が全てぼやけてしまいます。</p> <p>例えば、「次世代に継がせたい観光産業をつくる」が目標像であれば、方針として、「観光事業者が持続的に稼げる仕組み・観光資源づくり」のような方針が追加でき、富裕層をターゲットにした高単価な旅行商品づくりと磨き上げなどの具体的なターゲット及び戦略に結びついてくると思います。（これは、富裕層をターゲットとすべきという意見ではなく、ターゲットの具体化の一例です。）</p> <p>計画案では、「例えば初めてのスキーや初めての子供連れの旅行、3世代旅行等に強みが発揮できます。子供からご年配の方まで幅広い世代と一緒に楽しめるデスティネーションとして磨き上げをおこないます。」と記載がありますが、このような形でぼやけさせるのではなく、複数でも良いのでターゲットを特定して明記する必要があるのではないのでしょうか。（国内富裕層、首都圏の30～40代ファミリー層、アクティブシニアのスキーヤー等）</p>	<p>・季節やテーマ、事業者の考え方等によっても異なりますので、町の計画としてターゲットを詳細に絞った表記をするのは難しいと考えております。</p> <p>・湯沢町スノーリゾート形成計画や（一社）湯沢町観光まちづくり機構のDMO確立形成計画にはもう少し詳細なターゲット像を示しております。</p>	
7-4	61	4.目標実現のための戦略	<p>・P61 戦略5-1 環境負荷の少ない観光地経営を盛り込んでいただきありがとうございました。「雪」を守るためにも、「次世代に継がせる」を実現するためにも、環境まちづくりをどうしていくか真剣に湯沢町として優先的に取り組んでいただきたいと思います。</p>	ご意見は承りました。ご協力をお願いいたします。	
7-5	75	7. 計画推進のしくみ	<p>・P75 成果指標 意識調査等で得られる客観性に欠ける数値（湯沢町の若者の定住意向、観光客におもてなしの心で接している町民の割合、自然環境に配慮されていると感じている人の割合）は、成果指標として採用すべきではないと思います。</p> <p>例えば以下のような指標を代替として提案致します。若者の転出率の変化、町民（生産年齢人口）の平均年収、観光事業者の平均年収、脱炭素化に向けた再エネ補助金の活用件数、等。</p>	成果指標については現時点の案になりますので、今後検証しながら検討してまいります。ご提案いただいた項目も参考にさせていただきます。	
7-6	13～40	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題	<p>・全体について 2. 湯沢町観光を取り巻く現状と課題、についてですが、こちらの項に記載されている各資料は「現状」に関する事実やデータばかりで、そこから導き出される「課題」について明示されていないのではないのでしょうか。各データや事実に対する、町として認識している課題を、再度有識者を交えた上で洗い出した方が良くと思います。</p>	ご意見を参考に、よりわかりやすい記載に改めます。	有

番号	住所		氏名	年齢	職業	受付日	提出方法
8						R4.2.18	メール
整理No.	頁	項目	意見		町の考え方		計画修正
8-1		全体	<p>そもそも：新組織(DMO)の発足を受けて計画を1年前倒しにしたことは良いのだが、10年分の計画を検討するためにしては作業部会が2回だけというのは意見や情報の集約としては少ない印象を受ける。ヒアリングは本当に足りているのか。概要はよくまとまっているし、やりたいことはわかるのだが、総論に終始していて具体的にいつまでにどんなことをやるのかこの案を見てもわからない。個別計画を立てるときになって「振興計画に記載が無いから不採択」といったことにならないようにしてほしい。</p> <p>全体として：カタカナ語が多いので用語集を設けるなど補足を行ってほしい。</p>		<p>・4回の委員会と2回の作業部会を開催しています。また、戦略8の「町内の取組事例」にもあります通り、2019年度から湯沢町観光推進組織の方向性の検討を進め、その過程で実施したヒアリングや委員会等の議論の結果等、全てをふまえて今回の計画を策定しております。</p> <p>・計画はあくまでビジョンや考え方の指針になります。単年で観光を取り巻く状況も変化しますので、それらを勘案し、定期的に見直しも行いながら具体的に実施する事業を検討していきます。なお、計画は今後の事業を網羅・確約するものではないことをご理解いただければと思います。</p> <p>・わかりにくい用語については、記載を改めたり、解説を加えます。</p>		有
8-2	7	1. 計画の背景と目的	<p>○計画の背景と目的について</p> <p>P7：「イベントやキャンペーンに偏った取組から脱却」とあるが、これだと既存のイベントやキャンペーンを踏襲しないような文言に見えるため、語句を「取組を見直し」などに改めてほしい。</p> <p>同：「ビジョンに基づき」とあるが、ここに「データと」を加えてほしい。</p>		<p>・ご意見のとおり、「取組から脱却し」を「取組を見直し」に、「ビジョンに基づき」を「ビジョンやデータに基づき」に修正します。</p>		有

8-3	14	2. 湯沢町 を取り巻く 現状と課題 (1)内部環境 の変化	P14：画像が荒いので解像度を改善してほしい。また清津峡トンネル、魚沼の里、塩沢宿は所在地が湯沢町ではないのでここに掲載するのは場違いに感じる。出典のあるデータだとは思いますが、なぜここで町内の観光資源であるはずの苗場山、谷川岳、清水トンネル、関越トンネル、毛渡沢橋梁、荒戸城、三俣宿、三国峠、大峰百番観音、外湯めぐり(山の湯・岩の湯・駒子の湯・街道の湯・宿場の湯)、道の駅みつまた、コスモスハーフマラソン、ユニバーサルウォーク、収穫祭、花まつり、雪まつり、全国童画展、中央公園、不動滝、OKKY、奥清津発電所、大源太湖(大源太一号砂防堰堤)といった項目の調査を行っていないのか。スキー場も知名度を聞いたのはガーラと苗場だけなのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・データについては、解像度の高いものに差替えます。 ・新潟県の事業として調査会社が実施した調査を引用しており、資源の選定は調査会社が行ったものです。選定の背景としては、雪国観光圏を軸にして、広域連携での観光振興を行っているため、湯沢町だけではなく、周辺市町の名所についても町内のスポットと比較した際のデータを把握する必要があったことと、設定可能なスポット数に限りがあるため、全てを網羅することは難しかったとのこと。 	有
8-4	18	2. 湯沢町 を取り巻く 現状と課題 (1)内部環境 の変化	P18：職場に通勤している町外の労働力(昼間人口)やリゾートバイトなどの季節労働者の視点が抜けている。町民が改善意識を持っていてもそれ以外の単身赴任で来ている支配人クラスや部課長や現場のバイトの意識まできちんと町民と同じ方向に変わるような取組や施策が必要である。意識調査の対象も同様で住民票ベースだけでなく実際の現場を意識して改善を図ってほしい。	成果指標にも掲げていますが、観光事業者の実態や意識を把握することが重要だと思っていますので、今後、定期的な調査の実施を検討したいと思います。	
8-5	19	2. 湯沢町 を取り巻く 現状と課題 (1)内部環境 の変化	P19：不要な情報	地価は地域のブランド力を示す一つの項目として捉えて掲載しております。その意図が分かるよう加筆しました。	有
8-6	20	2. 湯沢町 を取り巻く 現状と課題 (1)内部環境 の変化	P20：グラフの色の系統が似ていてわかりづらい	ご意見を参考に色を修正しました。	有

8-7	23	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化	P23：どちらのグラフも多い順に並べてほしい。居住地に個別の数字も入れてほしい。	ご意見を参考に、並べ替えをし、各居住地に数値を記載しました。	有
8-8	25	2. 湯沢町を取り巻く現状と課題 (1)内部環境の変化	P25：夏と冬で表を分け、数値の大きい順に並べよ	日帰り客と宿泊客でわけた見せ方になっておりますので、ご了承ください。	
8-9	42	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (1)目標像	○観光の目標像と基本方針について P42：目標像が大きすぎてイメージしづらい。多様な年齢層の町民が共有するのだからもっと短く磨きこんでシンプルにしないと覚えてもらえない、認知してもらえない可能性がある。この文章そのものはキャッチコピーではないかもしれないが、せめて3つに分解するなど工夫をしたほうが良い。例えば「あたたかい雪と人が出迎えるまち・湯沢」「世代を超えて〜まち・湯沢」「記憶に残るまち・ゆざわ」の3本立てにするなど	計画は定期的に見直しを行いますので、またその際に目標像を再検討することになった場合は、参考とさせていただきます。	
8-10	46	3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針 (2)基本方針	P46基本方針①について：四季を通じての湯沢の魅力はリピーターのお客様などは既にわかっている。問題はむしろ天候であって、「全天候型観光」の実現が重要だ。また若い人が特に計画なく来た場合にわかりやすいような観光スポットが不足しているとよく言われる。よって「全年齢型観光」も提唱する。 基本方針②について：この計画の全般的に町の歴史、文化に対するまなざしが不足している。文化という文章がここにしか出てこないのをこれを発展させて「歴史」「文化」の推進をはっきりと基本方針に盛り込むべきである。	・通年型観光はリピーターの中には四季の魅力をご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、来町するのは冬だけ、夏だけという方もいらっしゃるかと思えます。また、新規客層も獲得していく上では改めて四季の魅力や過ごし方を発信していく必要があると考えます。なお、全天候型については戦略1の「1-1.グリーンシーズン、全天候型のプログラムの造成」に入れております。 ・歴史については基本方針③でも意識しております。また、「雪国文化」という表現には、歴史も含まれている認識で使用しております。	

8-11	47	<p>3. 湯沢町が目指す観光の目標像と基本方針(3)ターゲットの考え方</p>	<p>P47ターゲットの考え方について：この計画案で最も問題のあるページ。マーケティング的に考えるとターゲットが全くブレブレだ。実際に利用しているのが40代や30代であればそこを継続してフォローするのが筋ではないのか。ミレニアル世代やジェネレーションZを狙うならアクティブで若々しく新しい価値観のまちづくりになるし、世代を超えて云々を言うなら伝統的な日本の落ち着いた価値観に寄っていく。まさに今の湯沢町が中途半端なのはターゲットを明確にしてないからだ。和風に寄せるのか洋風に寄せるのか、温泉を強調するのかスキーを売りにするのか、旅館やホテルや旅籠の伝統を守るのかペンションやロッジやコテージといった洒落た方向に軸足に置くのか。10年間これからの計画なのだから「こうする」という方針をきちっと決めるためにターゲットはこれだとはっきり言い切るくらいの表現を用いる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節やテーマ、事業者の考え方等によっても異なりますので、町の計画としてターゲットを詳細に絞った表記をするのは難しいと考えております。 ・湯沢町スノーリゾート形成計画や（一社）湯沢町観光まちづくり機構のDMO確立形成計画にはもう少し詳細なターゲット像を示しております。 	
------	----	--	---	---	--